

東京言語研究所 公開講座

対話的で探究的な学びの創造

＜講師＞佐藤 学氏（学習院大学）

＜日時＞2018年6月23日(土) 14:00～17:00

＜会場＞東京言語研究所

(新宿区西新宿 6-24-1 西新宿三井ビル 13階 ラボ教育センター内)

＜参加費＞一般 2,000 円

学生, ラボ・チューター 1,500 円

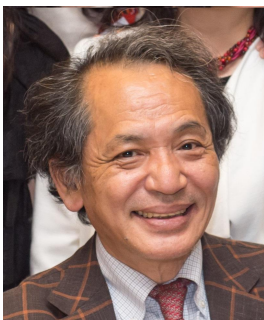
*2018年度理論言語学講座受講生は 1,000 円

※参加費は当日現金でお支払下さい。

定員
50名

＜申込み＞「ホームページ申込フォーム」、もしくは「FAX(ホームページよりダウンロード)」でお申し込みください。5月25日より申込開始

講師
略
歴



学習院大学文学部特任教授・東京大学名誉教授。東京大学大学院教育学研究科教授を経て2012年より現職。全米教育アカデミー (National Academy of Education) 会員。日本学術会議第一部 (人文社会科学) 元部長。日本教育学会元会長。アメリカ教育学会 (American Educational Research Association) 名誉会員 (Inaugural Fellow)。アジア出版大賞 (Asian Publishing Award) 大賞次賞 (2012年)。多くの著書が、英語、中国語、韓国語、台湾語、インドネシア語、ベトナム語、フランス語、ドイツ語に翻訳されている。(www.manabusato.com)

問合せ先

公益財団法人 ラボ国際交流センター 東京言語研究所

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-24-1 西新宿三井ビル16階

TEL:03-5324-3420 FAX:03-5324-3427

ホームページ:<http://www.tokyo-gengo.gr.jp/>

講演要旨
は裏面へ

【講義要旨】

「アクティブ・ラーニング」（「主体的で対話的で深い学び」文部科学省）による授業改革が、小中高等学校において取り組まれている。キーワードは「活動」「協働」「探究」の三つである。この改革の社会的文化的背景を踏まえたうえで、この改革に求められる学びのヴィジョンと哲学と理論について、実践の改革事例に即して検討したい。この改革において問われている理論問題の焦点は、レフ・ヴィゴツキーが『言語と思考』において提示した「言葉」と「思考」と「活動」の関係であり、「発達の最近接領域」の理論の解釈と拡張である。本講座では、現在の教育学と学習科学の論争問題を一般の方々にもわかりやすく提示し、私の推進している「学びの共同体の改革」の実例に即して検証することを企図している。